



【お問い合わせ先】

公益財団法人 名古屋まちづくり公社
名古屋都市センター 調査課 まちづくり支援担当

住所: 名古屋市中区金山町一丁目一番一号 金山南ビル内
TEL: 052-678-2214



名古屋都市センター
ホームページ

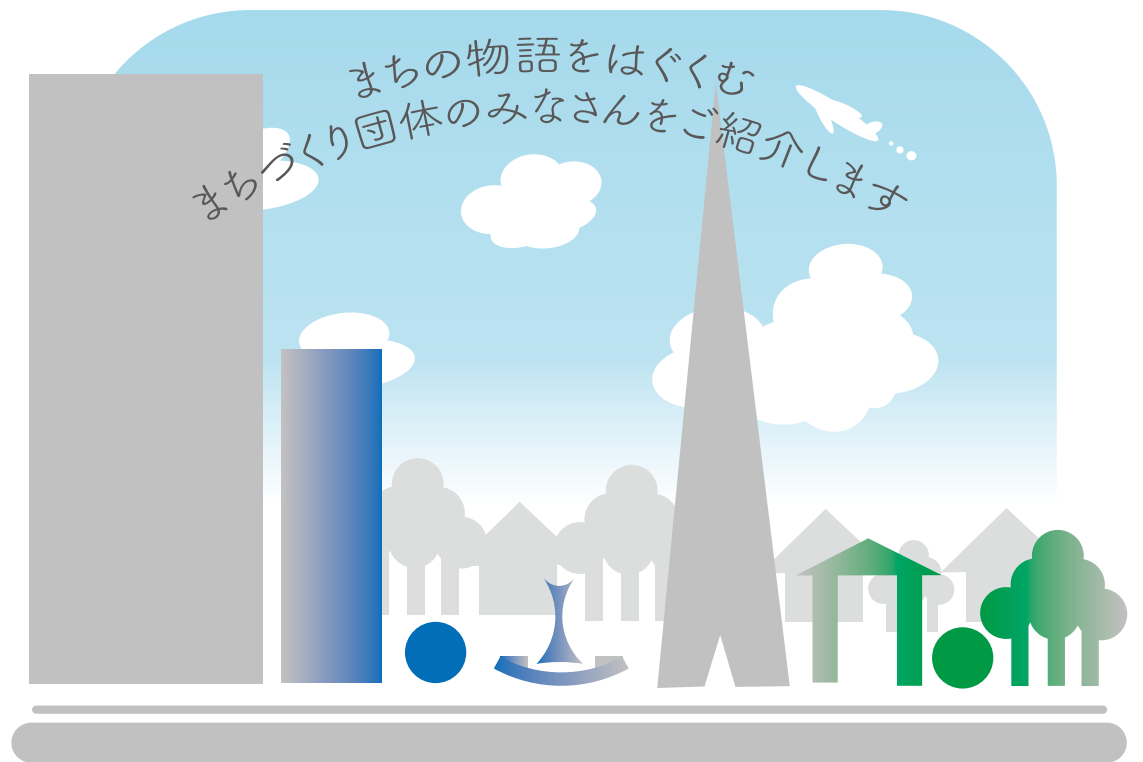
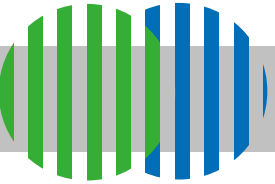
令和6年10月発行

名古屋都市センター
地域まちづくり支援制度

活動助成 Report Book

2023

レポートブック



 名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

まちの新しい景色。 まちで生まれる人のつながり。



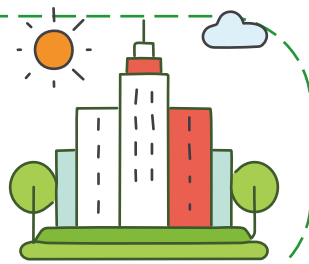
駅のそば・住宅地・駐車場・公園・道路……名古屋のまちのいたるところ。
あなたの隣でも、新たなまちの物語が生まれています。
そんな物語を生み育む、みなさんを応援したい。

名古屋都市センターは「地域まちづくり支援制度」で、あなたのまちづくり活動を支援します。



「地域まちづくり」って？

地域において、地域住民や多様な主体（自治会・NPO・商店街・企業など）が、自らまちづくり活動に取り組み、まちの魅力づくり、公共的な空間の利活用、住環境の維持、まちづくり構想やルールづくりなど、まちの環境や空間をつくる・つかう・まもることで、地域の価値を向上させるための取り組みです。



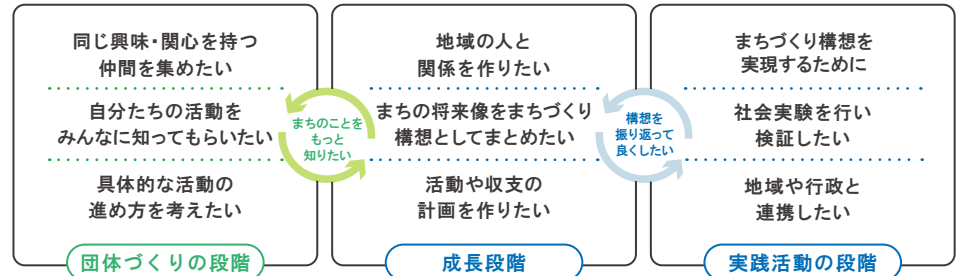
地域まちづくり支援制度

地域まちづくり支援制度を活用することで、こんなサポートを受けられます！

【活動助成】

まちづくりに必要な活動にかかる経費の一部について助成しています。

詳細は次ページ



スタートアップ助成

これからまちづくり活動を始めるグループや、活動初期の団体の活動を応援します。仲間づくりや、まちづくり活動の最初の一步にぴったりの助成です。

成長支援・実践活動助成

活動の周知や公共空間を活用したチャレンジ的な活動、組織基盤整備に関する活動。また、まちづくりの方針・まちづくり構想の策定、その実現に向けた活動等を応援します。



【まちづくり講座や交流会】

まちづくりに取り組む団体や個人に寄り添いながら、まちづくりのための人材育成やスキルアップを目的とした講座や講演会、他団体やまちづくり関係者との交流会、毎月開催の交流の場「未来茶輪（ミライカフェ）」などを通じたサポートを行います。

【アドバイザー派遣】

団体の成長段階に合わせて、まちづくりの専門家から、活動内容などについて、専門的知識や経験を活かしたアドバイスを受けることができます。

※派遣に費用はかかりません



活動助成の種類

名古屋都市センターでは、名古屋市内各地での地域まちづくりを推進するため、その取り組みを行うまちづくり団体を募集し、活動に必要な費用の一部を助成します。活動の段階や内容に応じて、大きく分けて下記の2つの助成メニューを用意しています。

スタートアップ助成

名古屋市内において、これからまちづくり活動を始めるグループや、活動初期の団体の活動を応援します。仲間づくりや、まちづくり活動の最初の一步にぴったりの助成です。

対象 活動初期のまちづくり団体またはこれから活動をはじめるグループ

5万円 助成1回目

10万円 助成2・3回目

成長支援・実践活動助成

名古屋市内において、活動の周知や公共空間を活用したチャレンジ的な活動、組織基盤整備に関する活動、まちづくりの方針・まちづくり構想の策定、また、その実現に向けた活動等を応援します。

対象 地域まちづくりを目的とした活動実績がある団体

10万円 PR助成
活動地域内の地域住民等に、活動の目的や内容をPRするために実施する活動に助成

10万円 スモールスタート助成
地域のよりよい環境づくりや価値向上のために行う公共空間等を活用したチャレンジ的な活動に助成

30万円 組織基盤強化助成
組織基盤の整備に関する活動に助成

50万円 構想づくり活動助成
まちづくり構想等を作成するための活動やそのためのコンサルタントへの委託に助成

50万円 事業化検討助成
まちのルールづくりや都市施設の利活用計画等を作成するためのコンサルタントへの委託に助成

50万円 まちづくり構想等の実現のために実践する活動に助成

※「地域まちづくり活動団体」（名古屋市内による登録を受けている団体）であることが助成の条件です。

地域まちづくり活動団体って？

地域まちづくりに取り組む団体と名古屋都市センターや名古屋市が継続的な関係をつくることを目的に、要件を満たす団体を名古屋市が登録します。（※要件あり）

成長支援・実践活動助成の申請には、登録が必須となります。

登録にはどうすればいいの？

名古屋都市センターへご相談ください。登録の審査には、1～2週間程度かかります。

どんな活動があるの？

例えば、下記のような活動を支援しています。

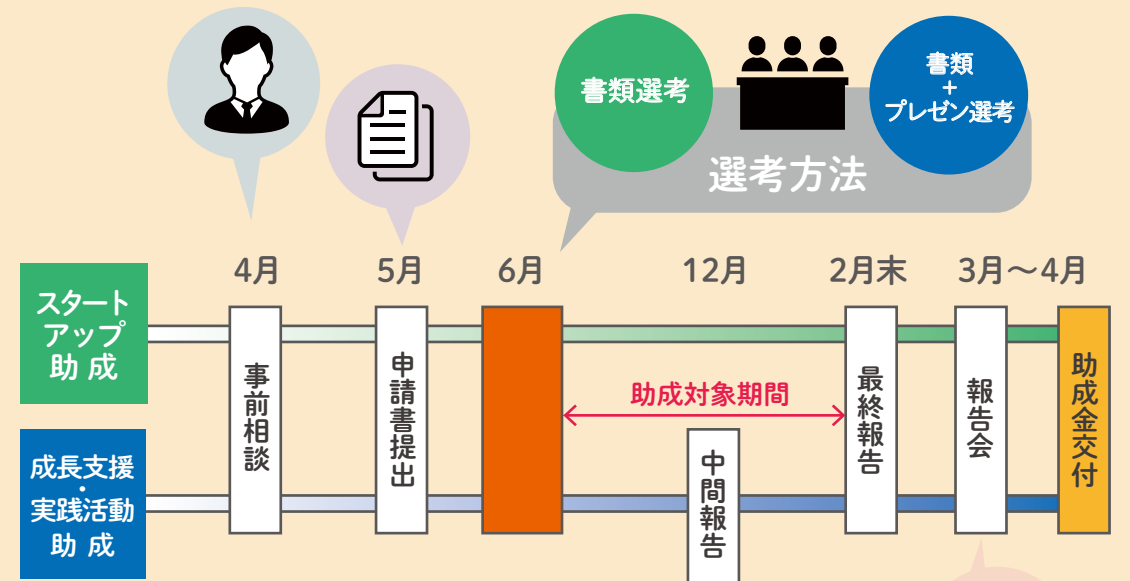
- ・同じ興味・関心を持つ仲間を集めたい
- ・地域の人と関係を作りたい
- ・社会実験を行い検証したい
- ・自分たちの活動をみんなに知ってもらいたい
- ・活動や収支の計画を作りたい
- ・地域や行政と連携したい
- ・具体的な活動の進め方を考えたい
- ・まちの将来像をまちづくり構想としてまとめたい



申請から交付までのスケジュール

それぞれの助成について、下記の流れで進んでいきます。みなさまのお早目のご相談をお待ちしております。

各助成の最新情報は
こちら



※申請内容や過去の助成状況、団体登録の有無等により申請までの流れが異なります。
※事前相談や申請などの受付の前には、事前予約が必要となります。
※各助成の流れや内容は変更になる可能性があります。

報告会の様子は
P17,18へ

【1回目】

1 新壮年団 prime of life in Niie 中川区：新家地区

【団体情報】
facebook



住民相互の親睦と地域社会の活性を図る

活動内容

福田川堤防・新家地区の清掃を行う「新家・福田川クリーン活動」や研修会（令和5年度は防災教室）、交流会などを実施しました。新家地域の世話焼き係として、新家の諸問題に関する活動を行っています。



団体からのメッセージ

新壮年団(にいえそうねんだん)とは、新家で生まれ育ったメンバーが中心となり結成した「青年ではなく老人にはまだ早い年代」で構成するボランティアコミュニティです。地域の諸問題に取り組み、住民相互の扶助・親睦、福祉・健康など「地域貢献」を目的に活動します。

【1回目】

2 f・ローズガーデン 名東区：藤が丘学区

花壇創りによる潤い空間の形成

活動内容

市営地下鉄・藤が丘駅と市営藤が丘荘に隣接するバスターミナル側の「バラの花壇」と東側歩道の和風庭園「メダカの池」の2か所の花壇による環境美化と憩いの空間形成に向けて、2022年春から市営藤が丘荘自治会と地域住民により活動を開始しました。



団体からのメッセージ

名古屋市市内の公園にあるバラの花壇のボランティア活動事例の調査を実施しています。また、地下鉄駅周辺の鳩の糞公害対策の情報提供も行っています。藤が丘f・ローズガーデンでは、仲間を募集中です。（活動は毎月2回程度）



【1回目】

3 かがみやしろ居場所づくり同好会 名東区：上社地区

【団体情報】
Instagram



「ここにいたくなるまち」上社を
学生と住民が共に創る

活動内容

- ①かがみやしろトーク
(各回設定したお題を基に上社に関わる人びとに回答、コミュニケーションをしていただく)
 - ②みつけ上社
(上社で見つけたものを写真を添えておくっていただくもの)
- その他：チラシ配布・街頭インタビュー
対面イベント企画・実施(2月)などの活動をしています。



団体からのメッセージ

SNS企画を通し、住民の持つニーズがどこにあるのかを知ることができ、またSNS上でのアプローチが、私達の活動内容を皆様に理解して頂ける手段としてとても良かったと思いました。居場所づくりを目的として始めた活動ではありましたが、対面イベントを実施し、多くの方に面と向かって「ありがとう」を貰えると、達成感にも自信にも大きく繋がりました。今後もSNS上や対面でのイベントを通じて、上社の魅力再発見や関わる全ての人の居場所となるような空間を創っていけるよう、課題など改善しながら精進してまいります。

【1回目】

4 上志段味ゆるさば 守山区：上志段味学区

【団体情報】
Instagram



ゆるさば防災おやじ部結成！

活動内容

親子で考える防災のきっかけとして、キャラクターの防災おまもり(折り紙)を配布。
<ハロウィンまちあるき>防災をテーマにしたクエストを企画。
<ダンボールピザ窯つくり>内側にアルミホイルを貼り炭の反射熱でピザを焼く。
などの活動を実施しました。



団体からのメッセージ

『地域の「たのしい!」を、自分たちの手で。』というコンセプトのもと、気軽に地域の活動に参加していただけるようなシステムとして誕生しました。できるときに、できることを、負担なく、ゆるーくサポートすることをモットーとしています。ゆるさばが活動を始めた頃は、若い女性たちに参加してもらうこと、コロナ禍で孤独になってしまったママたちを少しでも目的の1つでした。2年経ち、次の段階として今度は子育て中のパパたちに、もっと横のつながりを作ってもらい地域に関わってもらおう機会を作りたいと思っています。



【1回目】

5 | かさでら図書館運営委員会! 南区:笠寺町周辺

つなげたい! 人×本×まち

活動内容

地域の名所である笠寺観音の参道という立地を活かし、笠寺観音の行事に合わせて古本市や読書会などを企画。また、地域の人に図書館という場を利用してイベント出店等をしてもらい、地域の賑わいの場としています。図書館の本棚を借りて自身のお薦めの本を並べることができる「一箱本棚オーナー」を募集し、積極的に図書館に関わってもらうなどの活動をしています。



団体からのメッセージ

図書館利用登録者数が令和5年度末現在230名を超え、一箱本棚オーナー数は約90名の方が登録。まちづくり活動の礎が固まりつつある。開館当初からの構想である「本の交換箱」の設置を実現したい、また、新しいワークショップを企画したり、地元商店街等まちのイベントにさらに積極的に参加し、まちの居場所としての利用も増やしていきたいです。

【団体情報】

Instagram



【2回目】

7 | 正色学区生活安全委員会 中川区:正色学区

しものいしきコミュニティ活性化大作戦!

活動内容

主な活動は
下之一色思い出エピソード作成
・下之一色への愛着と誇りを育むことを目的に企画
新川SUP体験の実施
・下之一色の地域性(新川と庄内川)を活かした、かわまちづくりの可能性 です。



団体からのメッセージ

名古屋市中川区下之一色町(正色学区)はかつての漁師町で昭和初期には最盛期を迎えました。伊勢湾台風を機に漁業権を放棄した後は、賑わいは徐々に失われ、高齢化は進み、子どもの数も減少しています。そのような状況下、学区の魅力を向上させ、学区居住者が安心して暮らせるまちをつくっていききたいです。



【1回目】

6 | マチゾラ シンサカエマチ 東区:新栄町エリア

公共空間(まちの空地)を活用した
新たな居場所づくり

活動内容

新栄町エリアの公共空間(民間所有地を含む)を活用し、住む人、働く人、訪れる人の交流や滞留が生まれるまちの居場所(マチゾラ)をつくることで、新栄町を魅力あふれる賑わい拠点に! 主に公共空間を活用した地域イベントを継続的に実施しています。



団体からのメッセージ

新栄町は多様な人が訪れ、暮らすまちです。一方、まちなかには滞在・交流できる場所が少ない状況です。私たちは、新栄町エリアの公共空間(まちの空地)を活用し、滞在、回遊、交流が生まれる新たな居場所づくりに取り組んでいます。地域の皆様と一緒に、にぎわい・交流機会を創出する取り組みを続けることで、新栄町エリアをより魅力的にするまちづくりに挑戦しています!



【団体情報】

Instagram



【2回目】

8 | ふれあいガーデンクラブ 南区:名南地区

花を咲かそうプロジェクト
(ふれあいガーデン)

活動内容

地域住民が花苗の植え替えや[ふれあいガーデン]のプレート作製の作業を協同して進めることにより、小学生から高齢者まで多世代の住民のつながり、交流が生まれています。ミニ講座、仲間が集まっての花植え、プランターを囲んでの交流、またお楽しみ会を開くなどの活動をしています。



団体からのメッセージ

草花のお世話をとおして、みどりとうるおいのあるまちづくりを進めるとともに、地域住民がふれあい、つながりあえる居場所をつくる活動をしている地域住民主体の自主的なグループです。南区名南中学校区を中心に活動していて、だれでも参加できます。



スタートアップ助成

【2回目】

9 BLUE BASE 名古屋市全域

次世代の担い手の交流の場

活動内容

「次世代の地域の担い手」が集まって、勉強会をしたり、活動を紹介したり、何かしたい人たち同士が繋がったりしています。自分たちの住むまちに目を向け、地域を支える人材を応援し、担い手が増えることで、社会全体のさまざまな課題が解決していくのではと考えています。



団体からのメッセージ

歩いていける範囲を大切に。私たちは、子どもが育っていき、災害時の助け合いが行われる、この「地域」を、より良く変えていきたいと考えています。地域では、地縁組織をはじめとした支え手の高齢化、なり手不足が深刻化しています。不足している地域の担い手として、より多様な人が関わり、意見を交わしていくことで、住んでいるまちをもっと良くしていくことができます。担い手を応援するBLUE BASEでは、仲間同士での情報交換と交流を行うことによって、担い手が行動しやすい環境づくりをしています。



【団体情報】
Instagram



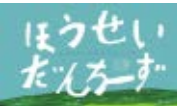
【2回目】

10 ほうせいだんちず 中川区：豊成町および愛知学区

豊成団地のゆるやかで新しい 地域コミュニティづくり

活動内容

地域のつながりが少ない団地で、月1回のおさんぽ&ごみひろい活動、子どもと一緒に作った「なぞときゲーム」、使わなくなったものを団地内で譲り合う「リサイクルデー」、本をきっかけに集う「ほうせいだんち文庫」などのイベントを実施。学区と連携して回覧板の情報を公式LINEアカウントで発信もしています。



団体からのメッセージ

豊成団地には町内会がありません。面倒なことがないのはよいけど、意外と情報が届かないという一面もなかのときもちょっと心配。そこで、たまにおさんぽにいたり、LINEを使って情報をとどけたり、、、都合よくてたのしくて便利でちょっとうれしい。そんなつながりができたらいいなーと活動しています。

【団体情報】
ホームページ



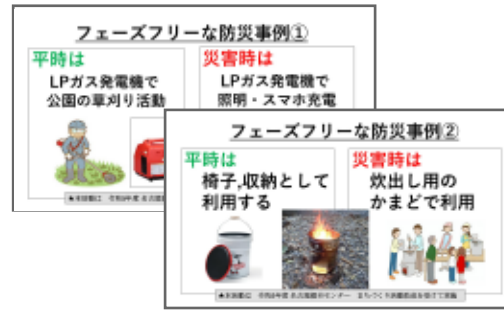
【2回目】

11 フェーズフリーな防災企画チーム (平時と有事をワンセット) 緑区：鳴海学区内

日常のまちづくり活動に非常時の 共助を合わせ織り込む活動

活動内容

LPガス発電機を利用して公園の草刈りを毎月実施し、災害時にはスマホの充電等に有効利用します。災害への日頃からの備えです。LPガスコンロで炊き出し訓練や防災ベンチの試作や土のう袋による花壇作りも計画中、地域住民のまちづくり行事に防災を同時平行して織り込むことがポイントです。



団体からのメッセージ

活動は鳴海駅の近く流れる扇川の周辺、過去に床上浸水を2度も経験した地域。防災への意識が高い有志の集まりです。普段は公園清掃・草刈りの自主的集団。フェーズフリーの取組み事例を発展させるため創意工夫で設計し、安価で容易なDIYで改造。有志メンバーで、楽しみながら協力して推進しています。



スタートアップ助成

【3回目】

12 ニシヤマイバショラボ 名東区：西山学区

まちにイバショを！

活動内容

私たちは、「まちにイバショを！」という思いで、2021年5月に名古屋市名東区西山商店街を拠点に、イベント等を中心として人々をつなぐ活動をしてきました。1年目は「エホンノジカン」などイベントで小さなコミュニティづくり。2年目は拠点となる「暮らせる図書館」をつくり、「イバショづくり妄想会議」を立ち上げ。3年目は、まちの人々のやりたい！を形にする「部活動」の立ち上げ、妄想を実現させた人からヒントをもらう「ジツゲン倶楽部」を実施してきました！



団体からのメッセージ

この3年間西山で培った様々なつながりや経験を活かして、他のまちに飛び出し、コミュニティづくりやイバショづくりの実験をしていきます！

【団体情報】
Instagram



【PR助成】

1 鶴舞・千種エリアマネジメント協議会

中区・昭和区・千種区：千種アーススクエアを中心に、千石学区、鶴舞公園の周辺地域

【団体情報】

Instagram



まちを活用したエリアマネジメントを目指して

活動内容

地域の魅力を活用したエリアマネジメントの実施により、住みよいまちの実現に向けて活動しています。令和5年度は8月に地域連携イベント「ツルマイ・チクサ ミズマツリ」で、歩道や公園、広場などのパブリックスペースを活用した回遊企画を実施。11月には市立千石小学校で開催されたふれあい祭りに参加。参加型のまちの魅力マップ展示や協議会ロゴマーク案の投票を行いました。

令和6年度に向けて

「まちの魅力マップ」で収集したおすすめスポットの情報を元にエリア内のお店にヒアリングを行い、魅力を深掘っていくとともに、団体の活動を周知していきます。この活動をきっかけとしてエリア内の店舗と協力体制を構築し、令和6年度以降はリーフレットによる取材した店舗の紹介やイベントへの出店を依頼していく予定です。

また、課題点を踏まえて、令和6年度は歩行者天国を実施し、エリア内の回遊性をより高めたイベントを検討中です。ガーランドづくりや什器づくりなど準備段階から地域の方々と協力することで、地域住民によるまちづくりへの参加のきっかけづくりを継続して取り組んでいきます。



【PR助成】

2 大杉まちづくり会

北区：大杉学区内

【団体情報】

Instagram



まちの歴史と妖怪伝説で育む地元愛

活動内容

北区大杉学区の住民が、住み慣れた街でいきいきと暮らし、将来にわたり住み続けたいような街を作ることを目的として、たちあげた団体です。住民が地域の歴史や魅力を知ることによって街に誇りや愛着を持てるよう、地域のつながりを強化できるような事業を展開し、今年度はおおすぎ落語会、歴史講座、まち歩き、学区界隈案内マップ作成などを行いました。

令和6年度に向けて

会の活動により、地域の魅力を発信できたことで、住民の地域への愛着が深まりました。今後も会の目的である「将来にわたり住み続けたいような街」につなげるために、活動のさらなる継続が重要だと感じます。

そのためには助成金を活用して作成したロゴマーク、マップ「大杉学区界隈今昔地図」を活かした活動を、いかに継続発展できるかといった課題が考えられます。具体的には、より多くの参加を地域住民に呼びかけるための周知方法（インスタグラム等）、活動の継続のために、活動を担うファミリー世代の運営スタッフの募集、ロゴマーク、マップの更なる活用などを検討していきます。



【スモールスタート助成】

3 一般社団法人フォーセット名古屋

中村区・中川区：主に中川運河にぎわいゾーン

【団体情報】

ホームページ



マルシェで高める、地域の結束と防災力

活動内容

名古屋市の「中川運河再生計画」に則りながら、市民に中川運河の景観の素晴らしさを広く知ってもらい、再度訪れたいような場所にしていきたいことを目的に、中川運河にぎわいゾーンにおけるにぎわい創出に資するマルシェイベントを開催しました。また、約7000人ほどの人々が住むささしまライブ地区における防災をもう一つのメインテーマにして、防災を楽しく啓蒙する機会としました。

令和6年度に向けて

行政や関係するまちづくり団体とも良好な関係で開催ができ、今後につながる活動になりました。一方で、実施会場に関係する行政機関が9機関あり、それぞれに申請手続きを行いました。相当な工数がかかりました。今後は、ワンストップで申請を受けていただける窓口機関を設けていただけないか、担当行政機関に相談していきたいと思えます。

当日のアンケートでは、「案内表示が少ない」「SNSを見たが企画の内容が分かりづらい」等のご意見をいただきました。来年度はこの点をふまえ、全体の案内図や事前の広報を充実させてまいります。



【組織基盤強化助成】

4 平針学区連絡協議会

天白区：平針小学校学区内

【団体情報】

ホームページ



地域情報まると発信！学区HPの作成

活動内容

平針学区の町内会加入率は60パーセント未満。地域情報の発信において、回覧板や自主作成の地域情報紙では伝達先が町内会加入者に限られてしまうため、より有効な広報の必要性を痛感していました。また、タイムリーな情報発信も必要です。このことを背景に「安心・安全で快適なひらばりの街」の実現のため、インターネットによる情報共有手段として学区ホームページの作成を行いました。

令和6年度に向けて

毎月「地域活動活性化委員会」を開催し、ホームページの内容検討を行ってきました。検討を重ねる中で、HPのみならず改めて学区の歴史・行事・組織の見直し等を行う機会にもなりました。また、参加メンバーの半数近くがこれまで学区との関わりが少ない人であったことは、今後の地域活動の活性化に寄与するものと考えています。さらに、各種団体等が自主的にHPを更新できる形も模索してきた結果、連絡協議会以外の団体からの情報も得られるようになりました。今後も、SNSを活用するなど住民相互の情報交換の場を設定できる方法を検討し、積極的に広報活動を展開していきたいと思えます。



成長支援・実践活動助成

【構想づくり活動助成】

5 星崎学区連絡協議会

南区：星崎学区一円

【団体情報】
Facebook



防災を軸に 誰も取り残さないまちづくり

活動内容

星崎学区は、伊勢湾台風を始めとして、過去に幾度となく大規模な災害に見舞われており、地域の防災体制の強化が必須の課題です。そのため、地域で活動する多様な担い手が、日頃から地域の様々な活動においても連携することが重要です。令和5年度は地域住民に対するアンケートや風水害エスノグラフィーの作成、タイムライン型個別避難計画の作成・検討WS等を開催しました。

令和6年度に向けて

アンケートからは、みなさん防災について非常に熱心で、さらなる取り組みの充実が期待できると分かりました。また「気軽に集まる雰囲気づくり」「地域が集まる行事の充実」「情報発信の強化」などは高い関心があるものの実際の取り組みが少ないこと、学区という小規模な単位の中にも、高齢化の地区、居住年数の違いなどによる異なる課題や特性があることもよく分かりました。来年度はこの取り組みをベースにし、防災対策の中に、住民が集まりやすい取り組みを展開していくことが重要です。一人ひとりが防災対策を確実に実行できるよう学区の地区防災計画（風水害編）を作成します。さらに、SNSを活用した情報発信力の向上、事業所や各種団体など多様な主体を巻き込んだまちづくりを行うための担い手の育成などを検討していきます。



【構想づくり活動助成】

6 藤が丘まちづくり協議会

名東区：地下鉄藤が丘駅周辺を中心とした藤が丘学区全域

まちの変化とともに将来像を考える

活動内容

藤が丘地域は約50年前に土地区画整理事業で成立し、当初は通勤族が中心でしたが、昨今は定住者が増加。地区の成熟に伴い、地縁的な結びつきによる都市型コミュニティ構築に向けたエリアマネジメントや老朽都市インフラの計画的な再整備、地区アイデンティティづくりと持続性のあるまちづくりを進めることが重要です。令和5年度は住民まちづくり意向調査の多面的分析と報告、まちづくりワークショップやファシリテーターの育成を行いました。

令和6年度に向けて

地区住民の応募を受けてファシリテーターの養成が進み、学生と住民が参加したワークショップでは運営の役割を担うことができました。今後のワークショップを地区内人材で運営できる体制が整いました。一方、ワークショップを行う中で、異なった層の人々の協議の重要性が浮き彫りになったため、令和6年度は藤が丘にかかる様々な利害関係者との協議を一層進め、構想策定に反映させることが課題です。また、地区固有の課題として地下鉄高架下利用があり、公共空間をどのように使うのか、使えるのかについて、議論だけでなく社会実験の実施を踏まえた活用方法の具体策づくりが必要だと考えています。



【構想づくり活動助成】

7 名駅東花車・船入地区まちづくりの会

中村区：名駅五丁目のうち錦通りより北側

【団体情報】
ホームページ



「誰をも受け入れる新しい時代の実りある街」へ

活動内容

名駅東花車・船入地区は、名古屋駅から徒歩圏内という利便性の高い立地であり、戦後に拡張された幹線道路沿いには市街地改造事業によって建築された複合用途ビルがある一方、街路網が未整備の地域中央部には戸建て住宅や小規模共同住宅などが混在しています。令和5年度は着実に高まりつつある「まちづくりの機運」を地域連携の原動力として、令和4年度にまとめた「はなぐるままちづくり構想」を具現化していく為に、地域の現状や防災上の課題を専門的な見地をもって整理し、地域全体で課題解決を図っていくことを目的としました。

令和6年度に向けて

今年度のコンサルタントとの活動を通じて、住民・地権者・事業者・来訪者など多様な方々にとっての共有価値となるような『まちのルールづくり』を進めていくという新たな方向性が定まりました。いよいよ、地域に集う人々をつなぎ、絆を深める活動を積み重ねていく土台ができましたので、地区計画をつくる意義についての丁寧な話し合いと創意工夫を重ねつつ、地域合意を得ていくことが一番大事なステップと考えています。



助成団体の活動の様子や、申請時の書類等は下記からご覧いただけます。

スタート
アップ助成



成長支援・
実践活動助成



令和5年度 活動助成選考委員・評価員のご紹介

【スタートアップ助成】

三矢 勝司 氏
(名古屋学院大学現代社会学部准教授)

神谷 勇輝 氏
(公益社団法人名古屋青年会議所 監事)

野田 浩 氏
(名古屋市住宅都市局都市計画部ウォーカー・景観推進課長)

【成長支援・実践活動助成】

三矢 勝司 氏
(名古屋学院大学現代社会学部准教授)

阿部 順子 氏
(椋山女学園大学生生活科学部准教授)

古橋 敬一 氏
(愛知学泉短期大学専任講師)

※令和6年3月末時点

活動成果報告会の様子

毎年3月～翌年度4月の間に開催。活動報告に加え、選考委員・評価員を交えて、団体間で意見交換や交流を行います。

スタートアップ助成

日時:令和6年4月13日(土)
13:00~16:00
内容:第1部 成果報告
第2部 ディスカッション

助成を受けて活動した全12団体が活動の成果を発表しました。それぞれ一年間を振り返っての感想や、これから実行したい活動など様々なお話がありました。



後半のディスカッションは、グループに分かれこれからのについて対話しながら交流!お互いにメッセージを送りあったり、今後の決意表明を行ったりと大いに盛り上がりました。「こういう機会が大切!」「これからの活動に役立てたい!」と有意義な時間となりました。

3回助成を受けたニシヤマイバショラボの皆さんからは地域の成長活動がどんどん広がっていったさま、また今後の目標やまちづくりの楽しさなど発表がありました。



助成期間中には交流会を開催!

【交流・座談会】

日時:令和5年9月11日(火)
18:00~19:30
内容:活動紹介と座談タイム



団体間の
コラボや協力も
生まれました!

スタートアップ助成団体の皆さん同士で「どんな活動をしているの?」「どのように?」ほか、日ごろ感じていることを中心に、活動紹介や、お悩み・相談など、ざっくばらんに語り合い共有する場「交流・座談会」を開催!

参加者からは「とても楽しかった!」「参考になる助成団体と話ができた!」などの声をいただきました。今後も名古屋都市センターを舞台に、交流の輪をひろげられたらと思います。

スタート
アップ助成



成長支援・
実践活動助成



報告会・交流会のレポートや各団体の報告書は、右記からご覧いただけます。

成長支援・実践活動助成

日時:令和6年3月24日(日)
13:00~16:00
内容:第1部 成果報告
第2部 ディスカッション

全7団体による活動成果の報告会。どの団体もこの一年間、いろいろな壁にぶつかりながらも工夫を重ねて、まちづくり活動に取り組んできました。発表からは、そうした苦勞を乗り越えて得られた成果や想いが伝わります。



評価員からアドバイスをもらいました!

活動報告の後は、評価員からアドバイスをいただきます。



PR助成を受けた団体には、「ターゲットになるエリアを絞って積極的に発信すれば、対象の地域住民にも団体の存在を意識してもらえるようになるのでは。」と、今後の情報発信やPRのポイントをおさえたアドバイス。

災害エスノグラフィーを作成した団体に対しては、「エスノグラフィーが、読んだ人を刺激して次の物語を誘発するものになっていくといい。災害時のエピソードを劇にして、小学校で演じるとか。当時の話や知恵が地域に受け継がれていくことを期待している。」と、成果品のさらなる活用についてのアドバイスがありました。



団体同士の交流を深めました!

アドバイスをいただいた後は評価員、センター職員、見学者も加わっての交流会を行いました。どのグループも、お互いに聞いてみたいことや、評価員に相談したいことばかりで全く話題が尽きません。普段から抱えていた悩みを互いに尋ねあったり、構想づくりに取り組む団体同士が、工夫を共有して労いあったり。すっかり仲良くなって「お互い姉妹都市ならぬ姉妹団体になって、サポートしあおうよ!」なんて話も飛び出したようです。

